

平成30年度

第1回 埼玉県県央地域保健医療・地域医療構想協議会

## 議 事 録

平成30年 9月 6日(木)

13:10～14:10

鴻巣保健所 大会議室

### 1 開 会

(進行：鴻巣保健所 佐々木副所長)

### 2 あいさつ

鴻巣保健所長 柳澤秀明

### 3 議 事

#### (1) 会長、副会長の選出について

柳澤保健所長の暫定的議事進行の下、会長、副会長の選出について諮り、会長に内田委員、副会長に伊波委員を選出した。

以下の議事からは、内田委員が議長となり進行した。

#### (2) 協議会設置要綱の改正について

事務局からこれまで取り扱いが不明確であった、協議会委員の代理出席について可能とするよう規約を改正した旨、報告した。

#### (3) 病床機能報告データ分析結果について

保健医療政策課から、資料1及び1別紙に基づき、病床機能報告データ分析結果について説明した。

質疑は特になかった。

#### 【概要】

- ・ 地域医療構想では病床機能を4つに区分し、将来必要となる機能別の病床数について医療資源投入量等を基に推計している。
- ・ 一方、現状を把握するための病床機能報告制度では、各医療機関の自主判断により病床機能を報告することとなっている。
- ・ 構想の推計方法とは異なるためこれらは単純比較ができない上に、医療

機能の捉え方には各病院によって差があり、現状の把握が難しいとの意見も多かった。

- ・ そこで国に先駆けて、埼玉県独自で客観的基準を作成して分析した。
- ・ 基準については、「算定している入院料」と「具体的な医療提供内容」を主な枠組みとしている。(資料1、P3)
- ・ 「算定している入院料」では、例えば、救急救命やICUなどの病棟は高度急性期、回復期リハビリ病棟は回復期、療養病棟は慢性期などとしている。
- ・ 「具体的な医療提供内容」では、入院料からは病床の機能を判断できない一般病床等について、稼働病床1床当たりの医療提供内容で高度急性期と急性期、急性期と回復期を区分する線を設定している。(資料1、P5～8)
- ・ 医療機関からの報告数の合計(3,420床)と今回の分析結果の合計(3,131床)で約300床の差があるが、これは病床機能報告がなかったものや分析できるデータがなかったためである。
- ・ こうした分析結果については、圏域で不足している医療機能についての議論の参考としていただき、今後どのような病床を整備すべきかを議論する際に活用していただきたい。

#### (4)「公立病院改革プラン」及び「公的医療機関等2025プラン」について

保健医療政策課から、資料2-1、2-2、3に基づき、プランを協議会で説明する趣旨等について説明した後、県立がんセンター、上尾中央総合病院、北里大学病院の順にプランの概要を説明した。

質疑は特になかった。

#### 【県立がんセンターの説明概要】

- ・ アクションプランを県立4病院を対象に経営管理課が作成している。このプランでは、地域医療構想の推進、再編・ネットワーク化などが盛り込まれている。
- ・ 患者を待たせない、地域連携、待ち時間を少なくの取組をしている。
- ・ 経営マネジメントの強化や高度医療やゲノム医療にも取り組んでいる。
- ・ がんゲノム中核拠点病院に11病院が指定されているが、それと連携する100の病院にがんセンターが指定されている。
- ・ ロボット手術や内視鏡についても進める。
- ・ バランススコアカードも作成している。

#### 【上尾中央総合病院の説明概要】

- ・ 現在病床数は731だが、11月からICU2床が稼働するため、許

可病床数 733 床が全部稼働となる。

- ・ 圏域の人口は逡減するが 75 歳以上の高齢者は逡増する見込みである。これを基に必要病床数を算出すると、H37 年には回復期が約 900 床不足見込みとなる。
- ・ 病床機能別の完結率を見ると、全ての機能病床で 3～4 割が流出しており、その多くがさいたま市に流れている。
- ・ 災害拠点美病院は 11 月に申請予定である。
- ・ 救急も積極的に受け入れており、先進医療も手掛けているが、所在が圏域の南端に位置しているため、疾患によってカバーする範囲に偏りがある。
- ・ 毎月 1,700 件の逆紹介をしているが、毎月 2,000 件の紹介患者を受け入れているため、病床の回転率を上げて効率的な運営を行うことが課題となっている。
- ・ 今後は地域の中核病院として、急性期医療をさらに推し進め、救急救命センターや災害拠点病院の指定を受けるために整備を行っていく。

#### 【北里大学メディカルセンターの説明概要】

- ・ 許可病床数は 372 床であるが、稼働は 334 床である。
- ・ 入院患者の医療需要は年々微増することが予想されるが、病床の必要量は回復期が約 900 床不足し、急性期が約 450 床余裕が出ることが見込まれる。在宅医療等の必要量も大幅に増加することが見込まれる。
- ・ 当院は平成 15 年から地域医療支援病院として、地域の医療・福祉施設や行政機関と連携し地域で完結できる医療の中核として役割を担っている。
- ・ 現在は急性期を中心としているが、この中には高度急性期も含まれており、将来的には重症患者の受け入れをさらに増加させ、高度急性期の比率を増加させていきたい。
- ・ 稼働していない病床については、地域医療支援病院としての機能を発揮していけるよう取扱いを検討していく。

#### (5) 病院整備計画の公募について

医療整備課から資料 5 に基づき、病院整備計画の公募について説明した。県央地域では 127 床を募集していた。応募内容は、全県的に急性期の後方支援の役割を果たしたいというものが多かった。質疑は特になかった。

#### (6) 病床機能転換に関する補助事業について

医療整備課から資料6に基づき、国及び県の補助事業である埼玉県病床機能転換促進事業について説明した。

当所管内からは桃泉園北本病院、埼玉脳神経外科病院が補助金の申請をしている。

質疑は特になかった。

#### 4 閉 会